

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年6月3日
タイトル	「くわい」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年5月21日（木）福山市立新涯小学校5年生約130名が、新涯小学校図書室で出前授業を受けました。

新涯小学校5年生は、地域の特産物である「くわい」について、くわい農家の方から栽培方法を教えていただき植付け体験や収穫の見学をし、それを参考に校庭にあるミニ田んぼで「くわい」を栽培し、収穫した「くわい」を使った調理実習をする学習に取り組んでおられます。

先日は、第1弾として福山くわい出荷組合の枝廣義春前組合長から農家の方の生の声をお聞きする出前授業をされました。



みんな真剣な表情で話を聞いています！



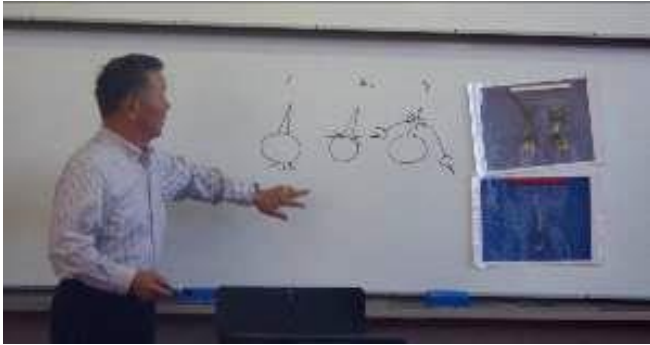
パネルを使って分かり易く説明です！

出前授業の主な内容

- ・くわいは、約1,000年前中国から伝来し、福山市では120年前に福山城のお堀に植えられたと伝えられている。新涯町では69年前から本格的に栽培がはじまった。
- ・当時は寒さが厳しく、収穫も洗浄も手作業だったため非常に厳しい作業だった。
- ・米からの転作が勧められ「くわい」の栽培が徐々に増えていき、約60年前にくわい出荷組合ができた。約50年前に本格的な協同出荷が始まり、19年前に埼玉県を抜いて日本一になった。
- ・くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわい。
- ・植付けする「くわい」は、前年の収穫時に取っておいて冷蔵庫で保管しておき、植付前に冷蔵庫から出してから植える。冷蔵庫から出すとすぐにくわいから芽と根が伸びてくる。
- ・くわいの芽は1m以上に成長し500～1,000本に1本の割合で白い花を咲かせる。この花から実もなって、その種からくわいを栽培することもできる。
- ・収穫は11月からで、毎年11月13日が初出荷となっている。福山市農協の川口グリーンセンターで、紅白の幕を張って初出荷を盛大に行っている。出荷の最終は12月22日頃で、くわいの出荷は1ヶ月半ほどである。
- ・主な出荷先は、大阪、京都、奈良、福岡、東京で、生産量は200～250tぐらい。生産農家は50～60軒。
- ・くわいは、焼酎やスープ、お菓子に加工して売られるようになった。
- ・くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取る。それから、ポンプで水圧をかけて掘る。約30年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり収穫作業が3～5倍速くなった。今は、レンコンを収穫する機械のノズルを改良してくわい用にしている。

パネルを使って「くわい」の葉や花の様子、収穫の様子を説明されました。またホワイトボードに絵を描いて「くわい」の根がどこから生えてくるかクイズをされました。

子ども達は、玉ねぎのように、「くわい」の底から生えてくると思う子が一番多かったのですが、実際は芽の途中から生えてくるそうです。



説明の後、質問や感想に元気よく手が上がり、色々な質問や感想が寄せられました。

「くわいの収益はどのくらい？」

「くわいが3種類もあると思わなかった。」

「早く学校で植えてみたい！」



最後は、子ども達から大きな声で感謝の気持ちが伝えられ、大きな拍手で枝廣さんの退室を見送られました。

今年度は、これから新涯小学校近くのほ場でくわいの植付け体験をし、学校の校庭のミニたんぼへ植付け、収穫といった昔ながらの手作業による「くわい」栽培の農業体験をすることとなります。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子を取材したいと思います。